

余生よせい（良寛りょうかん）

雨あめ 晴はれ 雲くも 晴はれて 気きも 復また 晴はる

心こころ 清きよければ 遍へん界かい 物もの 皆みな 清きよし

身みを 捐すて 世よを 棄すてて 閑人かんじんと 為なり

初はじめて 月つきと 花はなとに 余生よせいを 送おくる

雨晴雲晴氣復晴 心清遍界物皆清
捐身棄世爲閑人 初月與花送餘生

解説 人生の盛りを過ぎたのちの生活を詠った詩。

語釈 ※余生Ⅱ一生の残りの命。人生のさかりを過ぎた後の生涯。
※遍界Ⅱ世の中のこと。※閑人Ⅱひまな人。

通釈 雨が上がり、雲も遠のき、晴れあがったので大気までもがさっぱりとした。心がすがすがしければ、世の中の物すべてがすがすがしく感ぜられる。いま、私は、この身も、このうき世も捨てて、ひ暇人となって、初めて月と花とを理解することができる。この月と花を相手に余生を送ることにしよう。